

まえがき 患難の効用

理事長 池田 勇人

麦踏みをしたことがありますか？

まだ風の冷たい早春に、カニの横歩きのように地下足袋で踏んでゆきます。

せっかくなにかわいい芽が出たというのに、なぜ踏み倒してイジメるのかといえ、芽の出すぎを抑え、根張りをよくするためです。麦の性質をよく知った、お百姓さんの知恵なのです。

私達の人生にも、神様のくださる麦踏みがあるのではないのでしょうか。

世界で有名な医師野口英世は、幼少の時囲炉裏に落ち、手にヤケドをおきました。

珠玉の童話をたくさん残したアンデルセンは、失恋を何度か経験し、生涯独身でした。

エジプトの宰相になったヨセフは、十七才からの十三年もの間奴隷でした。

『然のみならず患難をも喜ぶ。そは患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ずと知ればなり』（ロマ五・3〜4）

患難の効用、それは忍耐の子と練達の孫を、希望のひ孫をも生じさせること。

さらに、キリストの苦しみに近づけさせ（ピリピ一・29）、神の聖さに与らせ（ヘブル十二・10）、苦悩する者への慰め手として（Ⅱコリント一・4）成長させてくださる神の配剤だということです。

患難は人によって種々異なるでしょうが、あかし文の行間に救い主が見えてきますように祈りつつ…。